

令和5年度事業継続力強化計画

業種別モデル：製造業－プラスチック製品製造業

本資料は、中小企業庁の「事業継続力強化計画策定の手引き」（以下、「手引き」と云う）を基に、中小企業・小規模事業者の皆様の同計画策定の一助となるよう、業種別の策定記載例を示したものです。

「手引き」と合わせて、事業継続強化計画を作成する際の参考にしてください。

（参考）中小企業庁「事業継続力強化計画策定の手引き」　　　　　 <https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/antei/bousai/download/keizokuryoku/tebiki_tandoku.pdf>



なお、本資料についてご質問やコメントなどがありましたら、こちらにご連絡をお願いいたします。

【公益財団法人　埼玉県産業振興公社　　経営支援部経営支援グループ】

電話：　048-647-4085

E-mail：　desk@saitama-j.or.jp

HP：　<https://www.saitama-j.or.jp>

**様式の記入例（製造業－プラスチック製品製造業）**

|  |  |
| --- | --- |
| 申請先 | 　関東経済産業局長　　　殿 |
| 住所 | **必須** | 〒 | ○○○－○○○○ |
| 都道府県　 | 埼玉県 |
| 市区町村　 | ○○市 |
| 字・番地等 | ○○○ |
| マンション名等 |  |
| 事業者の氏名又は名称 | **必須** | 株式会社○○○○ |
| 代表者の役職 | **必須** | 代表取締役 |
| 代表者の氏名 | **必須** | ○○　○○ |

1. 本社登記されている住所を入力してください。
2. 省略等はせず、正式名称を入力してください。
3. 役職名は必ず記載下さい（未記載はエラーとなります）。なお、個人事業主等で役職名がない場合は「代表」と入力してください。
4. 氏名の間には、全角スペースを1文字分入れてください。　＜記入例＞　継続　太郎

**１. 名称等**

|  |  |
| --- | --- |
| 申請種別 | 　　　　 |
| 事業者の氏名又は名称 | **必須** | 株式会社○○○○ |
| 事業者の氏名又は名称（フリガナ） | **必須** | カブシキカイシャ　○○○○○○ |
| 代表者の役職 | **必須** | 代表取締役 |
| 代表者の氏名 | **必須** | ○○　○○ |
| 資本金又は出資の額 | **必須** | 〇〇〇〇〇〇〇円 |
| 常時使用する従業員の数 | **必須** | ○○名 |
| 業種 | **必須** | 大分類 | 製造業 |
| 中分類　 | プラスチック製品製造業 |
| 設立年月日 | **必須** | ○○○○年○○月○○日 |
| 法人番号 | **必須** | 　 |

1. 事業者の氏名又は名称をカタカナ(※)で入力してください。　「カブシキガイシャ」「ユウゲンガイシャ」なども漏れなく記載してください。　事業者の氏名又は名称にカタカナもしくはアルファベット等が使用されている場合においても、 フリガナを入力してください。　※入力可能文字；　全角カタカナ、全角長音、全角スペース、「・」、「’」、「，」、「－」、「．」
2. 役職名は必ず記載下さい（未記載はエラーとなります）。　なお、個人事業主等で役職名がない場合は「代表」と入力してください。
3. 業種は日本標準産業分類の中分類を入力してください。　日本標準産業分類コード：　　<https://www.e-stat.go.jp/classifications/terms/10>　判断に迷われる際は、最寄りの経済産業局等にお問い合わせください。

**２. 事業継続力強化の目標**

**（１）　自社の事業活動の概要**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 自社の事業活動の概要 | **必須** | 当社は、各種ソフトロン製品（発泡ポリエチレン）の二次、三次加工を主たる業務とし、蓄積された技術及びノウハウを駆使して、良質な製品を提供しています。〇○○化学工業株式会社の指定会社としての重責に恥じないよう、常に高度な加工技術を追求し新製品の開発に積極的に取り組み期待に応えています。発砲ポリエチレンの応用範囲は非常に広く住まいの断熱、車両の内装材、建築物や工業製品、日用品など各分野に利用されており、当社はこの分野の専門メーカーとして生活及び産業活動のサプライチェーンの一翼を担っています。管理面では、方針管理を柱に活動を展開し、生産体質の強化と経営基盤の安定化を図っています。また、当社の従業員の多くは○○市内から通勤しており、地元からの雇用に積極的に取り組んでおり、当社が自然災害などで休業すると、従業員の生活安定にも影響を与えます。**本社とは別の所在地に工場・倉庫がある場合は、本欄の末にその所在地・常勤従業員数と明記します。　以下はその事例です。****【本社】　埼玉県○○市○○○****（常勤者数） ○○名****【□□工場】　埼玉県□□市□□****（常勤者数） □□名** |

1. 自社がどのような事業を営んでいるのかを、わかりやすく簡潔に記入してください。
2. 業種等に加え、自らの事業活動が担う役割（サプライチェーンで重要な部品を卸している、地域の経済・雇用を支えている等）を検討したうえで記載してください

**（２）　事業継続力強化に取り組む目的**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 事業継続力強化に取り組む目的 | **必須** | 当社は以下の目的のために事業継続力強化に取り組みます。1. 災害発生時においては何よりも人命を最優先とし、従業員やその家族、関係者の安全を確保すること
2. 製品の安定供給をとおして、顧客である〇〇〇化学工業㈱並びに○○ソリューションズ㈱などのサプライチェーンを維持すること
3. 従業員の雇用を維持することにより、地域社会に貢献すること
 |

1. 自社が担う役割を踏まえつつ、下記の観点について自社の理念等と照らし合わせて考えてください。
2. 「事業継続力強化計画作成指針第１－ロ」 の考えに基づき、自社が被災した場合のサプライチェーンや地域経済への影響度や、従業員に対する会社の姿勢について、可能な限り具体的に記載してください。
* 従業員やその家族に対する責務
* 自社の企業理念や経営方針
* 顧客・取引先や地域経済に対する影響
* 事業継続力強化に当たっての理念や基本的な方針

**（３）　事業活動に影響を与える自然災害等の想定**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 事業活動に影響を与える自然災害等の想定 | **必須** | 当社について、埼玉県及び○○市のハザードマップは次のような自然災害の危険性があるとしています。1. 地震：　最大震度６弱、液状化の可能性は低い
2. 水災：　対象河川は○○川と△△川で、最大浸水深：　３．０～５．０ｍ未満、工場敷地は、道路面から１ｍ程度高くなっている
3. 土砂災害：　なし

**本社とは別の拠点（工場・倉庫など）がある場合は、その拠点についても各自治体のハザードマップなどで確認し、それぞれの危険性を記入します。** |

**ハザードマップの入手方法**

* 地域の自治体HP
* 国土交通省ハザードマップポータルサイト
* J-SHIS（地震ハザードステーション）

**（４）　自然災害等の発生が事業活動に与える影響**

想定される自然災害等が、どのような影響を及ぼすかを５つの項目（人、モノ、金、情報、その他）から検討します。

|  |  |
| --- | --- |
| 自然災害等の発生が事業活動に与える影響 | **（想定する自然災害等） 　必須**想定する自然災害のうち、事業活動に与える影響が最も大きいものは、水災の浸水５ｍで、次が震度６弱の地震です。**埼玉県の場合は、「地震のみ」の事例も少なくありません。** |
| **（人員に関する影響）　必須**【地震】1. 操業中に地震が発生した場合は、事務所では事務棚やキャビネットなどからの落下物で負傷する可能性があります。
2. 工場では、避難の途中で転倒などより負傷する可能性があります。
3. 工場では、装置の横ずれにより負傷する可能性があります。

【水災】1. 操業中に水災が発生した場合は、社員及び関係者は事務所の　　２階・３階に避難することになりますが、避難の途中で負傷する可能性があります。
 |
| **（建物・設備に関する影響）　必須**【地震】1. 当社の建物（鉄骨造３階建て、築１０年）が倒壊することはないですが、一部の重量設備類はコンクリート床に固定されていますが、内容物が飛び出す可能性があります。
2. 地震により設備類から漏電により出火する可能性があります。

【水災】1. 当社工場は敷地（道路面から約１ｍ高い）と同じ高さで、５ｍの浸水があると、全て水没する可能性があります。
2. 生産設備は全て水没します。モーターなど電装部品を交換すると再利用は可能です。
3. 仕掛品、製品は全て廃棄になります。
4. キュービクルは道路面から３ｍの高さがありますが、５ｍの浸水があると水没します。
5. 近隣では一部の道路の部分が通行止めになる可能性があります。

【地震・水災】1. 電力及び上下水道の供給が停止する可能性があります。
 |
| 災害等の発生が事業活動に与える影響 | **（資金繰りに関する影響）**　**必須**【地震】1. 地震による影響で東電の供給がストップする可能性があります。
2. 停電による事業活動の休止期間は、最大で２週間（１０営業日）程度と思いますが、その程度であれば、資金繰りに影響はないと考えています。
3. 地震の２次災害である火災に至ると、再建に６カ月程度必要になります。（地震による火災は保険に加入しています。）

【水災】1. 水没が５日間程度続くと、事業活動の休止期間は、最大で４週間（２０営業日）程度と思うが、その程度であれば、資金繰りに影響はないと考えています。
2. 再調達に長期間（３カ月以上）を要する部品が損傷すると長期間（３カ月以上）一部の製造ラインが停止し、その場合は資金繰りへの影響があると考えています。
3. 生産設備・仕掛品・製品に対しては水災保険に加入しています。
 |
| **（情報に関する影響）**　**必須**多くのデータ（顧客情報、製造情報、財務資料など）はクラウド化していますが、契約書類・関係図面・営業情報などはクラウド化されていませんので、地震や水災の被災により喪失する恐れがあります。 |
| **（その他の影響）**1. 従業員の通勤に支障が出ます。
2. お客様の来館に支障が出ます。
 |

1. 前項目で想定した自然災害等のうち、最も大きな被害が想定される自然災害を対象として、事業活動に与える影響を想定します。
2. 「事象リスト」 と、 「脆弱性リスト」 を参考にし、自社に当てはめて事業活動に与える影響を考えてみましょう。
3. また、自社だけではなく取引先の被災やインフラなどの影響を検討することも重要です。

**３. 事業継続力強化の内容**

**（１）　自然災害等が発生した場合における対応手順**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **項目** | **初動対応の内容** | **発災後の対応時期** | **事前対策の内容** |
| 1 | 人命の安全確保 | **必須**従業員の避難方法 | 発災直後 | 地震の場合は、駐車場に一時避難し、揺れが収まった後は、指定避難所（○○市立○○小学校、徒歩約　５分）に避難する。水災の場合は、早め早めに帰宅するが、それができない場合は工場の　２・３階または指定避難所に避難する。なお、指定避難所までの避難経路の周知・確認を実施している。 |
| **必須**従業員の安否確認 | 発災後１時間以内 | 従業員の連絡網の整備（メールアドレス、携帯電話番号） |
| 生産設備の緊急停止方法 | 発災後１時間以内 | 発災直後及び緊急時の生産設備などの停止手順の周知・確認をする。 |
| 2 | 非常時の緊急時体制の構築 | **必須**代表取締役を対策本部長とした、災害対策本部の立ち上げ | 発災後１２時間以内 | 設置基準の策定（震度５弱以上、豪雨については注意報が出た場合）災害対策本部の運営方針の整備代表取締役不在時（代行者：取締役など）の対応方法 |
| 3 | 被害状況の把握被害情報の共有 | **必須**被災状況や、業務活動への影響の有無の確認当該情報の第一報を顧客及び取引先への報告 | その他発災後２４時間以内 | 被害情報の確認手順の整理（カメラ撮影）被害情報及び復旧の見通しに関する関係者への報告方法（ＬＩＮＥ・メール配信と電話連絡） |
| 4 | その他の取り組み | 事業再開手順 | その他発災後７２時間以内 | 資材や設備の修理・廃棄・再調達の判断方法現場の整理、清掃方法工場の機器類などの再稼働手順 |

**（２）　事業継続力強化に資する対策及び取組**

各経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）について、A～Dに事前対策における「現在の取組」と、「今後の計画」の取組案を記入してください。

その際、各経営資源（Aヒト、Bモノ、Cカネ、D情報）において、自然災害等の影響がないものについては記載する必要はなく、自社にとって、事業継続上どのような対策を講じることが特に有効であるか、という観点で検討してください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **項目** | **現在の取組** | **今後の計画** |
| A | 自然災害等が発生した場合における人員体制の整備 | 地震及び水災発生時の避難場所の確認、避難訓練 | 地震発生時の場合：初期消火訓練、対策本部の設置訓練水災の場合は、注意報が出た場合の対応訓練 |
| B | 事業継続力強化に資する設備、機器及び装置の導入※税制優遇を希望する場合、この項目は入力必須です。 | 工場は耐震構造を取り入れている。 | 停電の発生に備えて、自家発電設備の導入を検討する。 |
| C | 事業活動を継続するための資金の調達手段の確保 | 現在、火災保険（地震特約・水災特約付き）に加入している。保険の対象範囲は、建物、設備及び在庫等となっている。休業が長期（６カ月以上）にわたる場合は、付保していない休業補償額が大きくなり、復旧費用や運転資金などの資金調達を圧迫することが想定される。 | 現在加入している保険について、休業補償も追加することを検討する。自然災害が発生した際に緊急融資が受けられるよう、地元の金融機関（銀行）の担当者とコミュニケーションを取る。 |
| D | 事業活動を継続するための重要情報の保護 | 現在、多くのデータはクラウド化されている。 | 更にクラウド化を進める。 |

**（３）事業継続力強化設備等の種類**

**注意点**

* 税制優遇を希望する場合は入力必須です。
* 税制措置の適用を受ける場合、税制優遇の対象は中小企業者等（資本金１億円以下等）となります。
* 資本金が１億円より大きい場合は、「税制優遇を活用する」のチェックボックスは非活性となり押下できません。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **確認項目** | **チェック欄** | **記載方法** |
| 税制優遇を活用する |  | 記載方法は「事業継続力強化計画策定の手引き」を参照 |

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | **（２）の****項目** | **取得年月** | **設備等の名称** | **設備の型式** | **所在地** |
| 1 |  |  |  |  |  |
| 2 |  |  |  |  |  |
| 3 |  |  |  |  |  |

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | **設備等の種類** | **単価（千円）** | **数量** | **金額（千円）** |
| 1 |  |  |  |  |
| 2 |  |  |  |  |
| 3 |  |  |  |  |

|  |  |
| --- | --- |
| **確認項目** | **チェック欄** |
| 上記設備は、建築基準法（昭和二十五年法律第二百一号）及び消防法（昭和二十三年法律第百八十六号）上設置が義務づけられた設備ではありません。 |  |
| 上記設備は、中古品及び所有権移転外リースによる貸付資産ではありません。 |  |
| 上記設備は、国又は地方公共団体の補助金等の交付を受けて取得等した設備ではありません。 |  |

|  |
| --- |
|  |

**５. 事業継続力強化を実施するために必要な資金の額及びその調達方法**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **実施事項** | **使途・用途** | **資金調達方法** | **金額（千円）** |
| 事前対策 | 従業員・関係者への給与、社会保険料等の支払い　（２か月分） | 銀行融資 | ２５，８００ |
| 事前対策 | 自家発電設備 | 自己資金 | ４，０００ |
| 事前対策 | 災害用ヘルメット・工具の追加購入（年間） | 自己資金 | ７５０ |
| 事前対策 | クラウド化の推進（年間） | 自己資金 | ４８０ |

1. 計画に記載された事業継続力強化設備等の導入等、事業継続力強化に資する対策及び取組を確実に遂行するために必要な資金の額を検討したうえで、その調達方法を「資金調達方法」欄に記載してください。
2. 「何の目的で」、「どのような使い方をするのか」を「使途・用途」欄に簡潔に記載してください。
3. 「損害保険への加入」等を「資金調達方法」に記載する場合は、「金額」の欄には、加入に際して必要な保険料ではなく、事業の継続に必要な金額（＝補償対象となる事由が発生した場合に自社に支払われる保険金の金額）を記載してください。

**３. 事業継続力強化の内容**

**（４）事業継続力強化の実施に協力する者の名称及び住所 並びにその代表者の氏名 並びにその協力の内容**

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | A株式会社 |
| 住所 | ○○県○○市○○ |
| 代表者の氏名 | ○○　○○ |
| 協力の内容 | 自然災害に備えた事前対策の取組強化について、技術的な助言を受けるほか、自社の生産設備に支障が生じた場合、同社の生産設備を借りて、代替生産を行うことについて、検討・決定する。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | B銀行　○○支店 |
| 住所 | 埼玉県○○市○○ |
| 代表者の氏名 | （支店長）　○○　○○ |
| 協力の内容 | 被災時に、緊急融資を受けられる契約を結んでおくとともに、埼玉県信用保証協会のセーフティネット保証を活用することについて、事前に協議を行う。 |

|  |  |
| --- | --- |
| 名称 | ○○市商工会 |
| 住所 | 埼玉県○○市○○ |
| 代表者の氏名 | （会長）　○○　○○ |
| 協力の内容 | 地震：　被災後に行政情報（支援情報）を提供して頂ける。水災：　水害に対する事業継続の強化に関する指導を依頼する。 |

**（５）平時の推進体制の整備、訓練及び教育の実施その他の事業継続力強化の実効性を確保するための取組**

事業継続力強化に当たっては、単に計画を策定するだけではなく、自然災害等が発生した場合の実効性も求められます。災害時に使えるような計画にするための取組を検討しましょう。

* 実効性の確保には、経営層の関与が必要不可欠です。必ず、経営層のコミットメントについて記載してください。
* 年１回以上の訓練と計画の見直しについても必ず記載してください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **経営層の下推進** | **教育・訓練の実施** | **見直しを計画** |
| **必須** | **必須** | **必須** |
| 計画の推進及び訓練・教育については、代表取締役の指揮の下、実施する。毎年３月と９月に○○市で発生する自然災害について代表取締役と従業員で話し合い、対策を検討する。 | 安否確認訓練を年２回（３月と９月）に実施する。地震対策として毎年３月と９月に指定避難所までの避難訓練を全従業員と一緒に実施する。合わせて、災害用の備蓄品の点検と整備を行う。 | 実態に則した計画となるように、年１回以上計画の見直しを実行する。 |

1. 実効性を確保するために、平時から行う取組を検討します。
2. 以下の3点全てについて、自社の取組を検討し、必ず記載してください。
* 平時の取組推進について、経営層の指揮の下実施する体制を整える。
* 年１回以上、訓練や教育を実施する体制を整える。
* 年１回以上、事業継続に向けた取組内容の見直しを計画する。
1. 平時の体制を活用することも有効です。
	* 例えば、製造工程の安全操業のための工程安全管理委員会を設置し、月１回見直会議を図っている場合、当該会議に災害対策を追加するなど。

**４　実施時期**

実施期間について、3年以内の取組としてください。

期間の開始は本申請書の申請日以降の年月からとしてください。

○○○○年○○月 ～ ○○○○年○○月

**年月を記入してください**

**６　その他**

* 1. **関係法令の遵守（必須）**

|  |  |
| --- | --- |
| 確認項目 | チェック欄 |
| 事業継続力強化の実施にあたり、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和二十二年法律第五十四号）、下請代金支払遅延等防止法（昭和三十一年法律第百二十号）、下請中小企業振興法（昭和四十五年法律第百四十五号）その他関係法令に抵触する内容は含みません。 | ✓ |

**チェックしてください**

**（２）　その他事業継続力強化に資する取組（任意）**

|  |  |
| --- | --- |
| 確認項目 | チェック欄 |
| レジリエンス認証制度（※１）に基づく認証を取得しています。 |  |
| ISO 22301認証（※２）を取得しています。 |  |
| 中小企業BCP策定運用指針に基づきBCPを策定しています。 |  |

（※１）国土強靱化に貢献する団体を認証する制度

（※２）事業継続マネジメントシステム（BCMS）の国際規格